

公表

事業所における自己評価総括表【放課後等デイサービス】

○事業所名	ウィズ・ユー新中野			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 4日		～	2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		～	2025年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	16
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動等のスペースが十分に確保されており、生活空間は清潔で心地よく過ごせるようになっている。	集団活動については、各曜日のメンバーによって活動内容を変える工夫をしている。 職員全員で協力し、施設内については、毎日清掃を行っている。	面談実施の際の分析や学校や園の状況を把握ができる様に、関係機関との連携を図っています。
2	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されている。	保護者と面談を必ず実施し、内容の説明や目標の意図などを説明させていただいております。その時に保護者のニーズを把握して目標への追加またはプログラム内容への反映などを行っております。	ニーズに応えるためのプログラム数の増加や、支援計画以外での面談の機会の提供を周知していく必要がある
3	契約する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明をしています	契約時や見学の際にも丁寧な説明を心がけております。その時に分からないことなども後日ご相談にのることもできます。また、療育終了時にはフィードバックを実施しているので、都度その日の状況をお話しさせていただいております。	無償化対象から切り替わった際の負担額の説明を個々で受け取っている為、全体への周知を図ることを行う必要がある。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられている。	発達段階が低いお子様に対してのアプローチ方法の数が少ない部分があり、手法として端的になってしまうことがある。	社内や外部の研修を積極的に受講し、どのお子様にもあったアプローチ方法を増やしていく必要がある。
2	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている。	発達段階が低いお子様に対しては、ルーティン化をすることでできることを増やしているが、そのことで固定化になっている可能性もあります。	固定化する内容や新しいことへのチャレンジを同時にできる様に研修を行っていく必要がある。
3	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている。	支援計画更新時には面談を必ず実施しているが、お子様の成長に合わせて面談や相談の機会が少なく感じています。	全体への連絡をこまめに行っていき、成長に合わせた相談機会の提供を増やしていく必要がある。